

【第六回検討会】 日時：平成 30 年 9 月 27 日（木）午前 10 時 00 分～正午

第六回検討会では、住民アンケートや自治会長・自治会役員へのヒアリング、各種団体との意見交換での意見や、これまでの検討会での議論を踏まえて、報告書の作成に向けた全体像や具体的な取組等について議論を行いました。

高齢化や人口減少が進む地域がある一方で、若い世代や転入・転居される方が多く人口が増加あるいは維持される地域もある中で、地域の目指すべき姿は、それぞれの地域で異なると思います。

また、ライフスタイルや価値観の多様化なども影響し、自治会の役割や自治会の仕組みについても課題がある可能性も浮かび上がりました。

そのような中でも、検討会としての方向性として次の 5 点を大きなテーマとして検討しました。

- (1) 日々の暮らしの安全・安心が維持される地域づくり
- (2) 高齢化や人口減少を見据えた地域の身の丈に合った暮らしやすい地域づくり
- (3) 人を育てることができる地域づくり
- (4) 若い世代や子どもたちが希望や誇りを持てる地域づくり
- (5) 地域同士での助け合いや各種団体や企業などと連携した地域づくり



委員からは「部長が忙しいからと言って、自治会長がやってしまうところも多いと思うが、計画するところから関わってもらうことで、若い人の育成にもつながる。もう少し踏み込んで自治会や地域の課題を考えてみることも必要だと思う。」

「女性部だから踊りをするということには違和感がある。やってみると楽しかったり地域の方との交流にもつながるが、地域でも立ち止まって考えることが大切だと思うし、役場も地域が話し合うきっかけや情報提供をしてもよいのではないか」「高齢者の二人暮らしの時は何とかなるが、一人暮らしになると途端に弱ってしまい、空き家の増加に繋がる。高齢者対策をする一方で、空き家の解消に向けた具体的な手立てが必要だと思う。」「昨年度の間接報告を受けて、役場からの動員は減ったと感じている。しかし、自治会連合会の事業などの負担は解消されず、高齢者も増えていく中で厳しい状況である。」「地域の除雪について、できる人をお願いして燃料代を払っているが、徐々に高齢化で厳しくなる。具体的に考えていく必要があると感じている。」といった意見が出されました。

また、オブザーバーとして参加いただいている、若菜千穂さん（特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター常務理事）からは、「地域づくりは様々な階層の様々な団体、個人の活動によって成り立っている。自治会が担っているのは実はその一部だけである。外部の人との連携や企業との連携なども含めて、様々な可能性を考える必要があるし、自治会も変わっていく必要がある。」とお話を頂きました。

今後は、各委員との個別の意見交換を踏まえ、10月に検討会を開催し、その結果を受けて、町長へ報告書を提出する予定です。